

介護 なんでも 相談室

21



松永安優美 まつながあゆみ

栃木県出身、内科医。埼玉医科大学卒。同大付属病院を経て実家の松永医院に勤務。平成3年から特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホームなどを設立。現在、医療法人「聖生会」理事長、社会福祉法人「裕母和会」会長として、医院と8つの介護施設を運営している。

Q

高齢者の運転する自動車が事故を起こすニュースが多くなっています。私の父親も、80歳を越えています。運転が大好きです。カメラと写真撮影が趣味なので、自分で計画して山や海へ車を運転して出かけていきます。私は心配で運転をやめてもらいたいのですが、父親は聞く耳を持ちません。ふだん、父親のどんな点を観察していれば、危険信号を見つけられますか？



A

大変むずかしい問題ですね。地味な方などでは車が見られないこともあるでしょう。お父さんが、車を運転しないと買いたくもないという事情がありますから、高齢者の運転免許を一律に規制するのはいかなるものかと思えます。お父さまは趣味を持ち、ドライブに出かけるのが好きとのこと。それはすばらしいことです。「運転するな」というのは酷ですし、ご本人の健康のためにも逆効果だと思います。

高齢者の運転事故のニュースはよく聞きますが、人間、脳の老化現象が始まると、錯覚を起こすことがあります。ブレーキと違ってアクセルを踏み続けてしまったり、高速道路を逆走するのは、認知症でなくてもこの瞬間の錯覚であることもあり、本人は間違いに気づかないことがあります。

だから、受け答えもできず、検査しても異常が見られないこともあるでしょう。お父さんが、こうした錯覚を起こすかどうか、ハッキリ申し上げて、それは予測がつかないかと疑ってみてください。本人や医者と相談して、病院で人間ドックなどの名目で認知症の検査も含めて受けられると良いと思います。また、生活習慣病、たとえば高血圧、糖尿病等の基礎疾患がないかどうかも検査しておくことが大切です。健康に自信のある高齢者は、自分が病人扱いされることを嫌がり、強引に病院に連れて行くとしても難しいでしょうから、医師と事前に相談したりして、家族がうまく誘導することが大事になってきます。